

## 学長としての緒言

多摩大学は、平成元年(1989)年に開学し、「国際性」「学際性」「実際性」を基本理念として、時代環境の変化を踏まえた実学を志向し、先進的教育改革を実行してきた。研究機関としての大学であるよりも、徹底して学生と向き合い人を育てる教育機関としての大学を目指し、学生が社会に出て時代の課題に立ち向かう問題意識と問題解決力を身に付けた人材を育てることに最大の主眼を置くとともに「現代の志塾」という教育理念を掲げ、少人数教育により志ある人材を育てるべく、より一層の改革を進めている。

私自身学長就任以来4年目が過ぎ、以上の方針のもと教育内容の充実と改善に腐心してきた。その結果、3月に送り出した卒業生の多くは、学長を引き受けて最初の入学式で語りかけた学生たちでもあったが、卒業生の何人かが手紙・メールもくれ「私が学長を務めている期間の学生」の輪郭が少しずつ手応えとして実感でき、感慨深かった。

新たに2年間、継続で学長を引き受けるが、創立25周年にむけて以下の方針としたい。

- (1) 教育の質のさらなる向上
- (2) 大学というビジネスモデルの進化
- (3) 多摩学の深化と進化
- (4) 2学部、1研究科の三位一体型運営の強化
- (5) 学生サポートの充実
- (6) 同窓会・後援会体制の充実と広報戦略の展開

次年度は、日本高等教育評価機構の自己点検活動の受審を控えており、これを機会に、あるべき教育改革と経営改革に向けて、先頭に立ち全学を挙げてより一層の努力を重ねていきたい。

平成25(2013)年7月

多摩大学  
学長  
自己点検評価委員長

